

【平成27年度 審判員の目標】

(公財)日本ハンドボール協会 審判部

1. 相手に対する動作の権利の保障(競技規則 8:1,8:2)

- ① 他のプレーヤーの手からボールを取るために、開いた片手を使うことは許されている。
- ② 攻撃側・防御側プレーヤーともに相手の進路を胴体で阻む行為は許されている。
- ③ 正しい防御動作をしているプレーヤー陣の中に攻撃側プレーヤーが攻め込むプレーにおいて、不用意に防御側の違反としない(プレーの評価)。

2. アドバンテージ・ルール(競技規則 13:2、14:2)の遵守

- ① アドバンテージはハンドボールの醍醐味である。競技レベルによる差異はあるが、「競技を早まって中断しないように」という条文の言葉を忘れない。ただし、防御側の違反により攻撃を継続できない場合は、直ちに競技を中断する。
- ② 攻撃側チームの違反の直後に防御側チームがボールを所持した場合も同様である。
- ③ 危険なプレーに対する罰則の付加を忘れてはならない。

3. レフェリーの動きと位置取り

- ① 競技の序盤に両チームに対して判定の基準を理解させるよう努める(笛の音、適切な観察位置への移動、大きなジェスチャー、口頭での指示)。
- ② 試合展開が速くなり、防御隊形も大きく変化している。これらに対応すべく任務を分担する。
- ③ 両レフェリーは、コート上で正しい位置を選択し速やかにその状況に対応する。ジェスチャーなどでプレーヤーとコンタクトを取ることで、プレーヤーを観察していることを知らせる。
- ④ ボールに対してだけでなく、その周辺や全体の事象にも注意を払う。得点後に移動する際も、プレーヤーとボールから目を離してはならない。

研究課題

1. 観客を魅了するスピーディーかつクリーンなハンドボールを目指し、罰則を的確に適用する。とくに、ベンチ管理は毅然とした態度で行う。
2. 競技規則第8条の「許される行為」と「許されない行為」を正しく判定する。
3. ハンドボール競技の発展を阻害するようなシミュレーションプレーを排除する。

「平成27年度 審判員の目標」の補足説明

1. 相手に対する動作の権利の保障(競技規則8:1, 8:2)について

攻撃側の違反を見逃すと、結果的に防御側の違反行為と判定してしまう。

☆攻撃側の違反/タイミングの判断基準☆

- (1) 防御側プレイヤーは相手に先んじて、つまり直後に身体接触が起こる場所に、先に位置を取らなければならない。
- (2) 防御側プレイヤーが、横方向に動いていることもあり得る。
- (3) 相手に正対した動き(接触する前に、攻撃側プレイヤーの正面に位置を取らなければならない。)
- (4) **防御側プレイヤー同士の隙間が閉じられている。**



防御側プレイヤーはまだ位置をとっておらず、隙間は閉じられていない！

隙間は閉じられているか？
閉じられていないか？

防御側プレイヤーが先に位置をとっており、明らかに隙間は閉じられている！

☆攻撃側の違反行為の典型☆

- (1) 正しくないブロック。
- (2) 防御側プレイヤーに対して肩を入れながら向かっていく。
- (3) **フェイント動作中に防御側プレイヤーを押ししたり、抱えたりする。**
- (4) **腕や手を用いて進路を広げる**
- (5) 防御側プレイヤーに向かって膝を出しながらジャンプする。
- (6) 利き腕の逆側にフェイントをした後、横への動きが不十分なとき。(防御側プレイヤーと接触)
- (7) 走って、あるいはジャンプして相手にぶつかる。
- (8) パスした後に防御側プレイヤーにぶつかる。



罰則を誘発させるために防御側プレイヤーを巻き込む行為を観察する。

利き腕ではない腕／手がどのような動きをしているか？

1対1の攻防で、攻撃側プレイヤーの行動を観察すること。得点することだけでなく、多くの場合は防御側プレイヤーに対する段階的罰則を誘発させることを狙っている点も重要である。

腕や手を用いて防御側プレイヤーを押しつけようとするすべての動作は攻撃側の違反となる。触れただけでは十分ではなく、その影響まで見極めなければならない!!

2. アドバンテージルール【競技規則13:2, 14:2】の遵守について

アドバンテージルールを遵守することは大切であるが、危険なプレーに対する罰則の付加を忘れてはならない。

競技開始直後であっても、即座に2分間退場は必要である。

☆即座に2分間退場とすべき違反行為・・・相手に対する危険性を軽視した違反行為☆

- a) 衝撃の大きい違反行為や、高速で走っている相手に対する違反。
- b) 相手を背後から捕まえ続けること、あるいは引き倒すこと。
- c) 頭や喉、首に対する違反。
- d) 胴体やボールを投げようとしている腕を激しく叩くこと。
- e) 相手が**身体のコントロールを失う行為をしようとする**こと。(8:5aを参照)
- f) 高速でジャンプして、あるいは走って相手にぶつかること。



喉、首、顔面、頭部に対する攻撃にイエローカードは必要ない。即座に2分間退場、もしくはそれ以上。

競技の直後から、競技規則8：4～8：6を適用することもある。
速攻等、高速で走っているプレイヤーを押す⇒即座に2分間退場。
ジャンプ中のプレイヤーを押す⇒即座に2分間退場。
競技規則にある「判断基準」を正しく適用する。

3. レフェリーの動きと位置取りについて

レフェリーは最新の防御システムに対して柔軟に適應しなければならない。

最近の防御システムはとくに柔軟になってきた。多くのチームが一試合の中で得点に応じて、また、プレーの発展のために何回も防御システムを変化させる。何よりもまず、コートレフェリーはすぐに反応し、基本的なポジションをそれに応じて適應させることが求められる。

レフェリーは、基本ポジションにとどまっていたはいけない。最近の個人的な防御活動は、大変柔軟であり、アタッカーを自陣コートへ追いやろうとする。コートレフェリーは、どんなパスや走るコースにも妨げにならないように反応しなければならない。

6-0防御、5-1防御、3-2-1防御、1-5防御、3-3防御、5-0+1防御、4-0+2防御、マンツーマン防御…、それぞれの防御システムに対して、レフェリーは互いにコンタクトをとり、位置取りおよびゴールレフェリーとコートレフェリーの役割分担を柔軟に変えていかなければならない。